

第153期

定時株主総会

IR資料



佐渡汽船株式会社

《 株主の皆様へ 》

佐 渡 汽 船 株 式 会 社
代表取締役社長 小 川 健

株主の皆様におかれましては、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第 153 期の決算が終了いたしましたので、ここに営業の概況と決算の状況を報告するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

《 営業の概況 》

当事業年度におけるわが国経済は、政府による経済政策の効果等で一部の企業で収益改善が見受けられ、日本銀行の景気判断も「穏やかな回復基調にある」と発表されたものの、4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、円安による原材料価格・燃料油価格の高騰により、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと当社は、4月の新造カーフェリー「ときわ丸」就航、4月から6月まで開催される「新潟デスティネーションキャンペーン」というプラス要因を踏まえ、①安全運航の徹底、②営業の強化とお客様サービスの向上、③佐渡観光の振興と地元との共存共栄、④組織の見直しを含めた大胆な合理化を進めるという重点目標を掲げ、当事業年度の輸送量の見込みを旅客輸送人員で 175 万人、自動車航送換算台数は 23 万 8 千台と設定いたしました。また、貨物輸送トン数は佐渡島内の人口減少等により、生活物資輸送量の減少、公共事業の抑制による建設資材等の輸送量減少が予想されることから、見込みを 20 万 4 千トンと設定いたしました。

以下に当事業年度の事業の経過及び成果をご報告いたします。

旅客部門の輸送実績は、年初は例年に比べて穏やかな気象・海象による欠航数の減少で旅客輸送量が増加し、前事業年度を上回る状況で推移いたしました。昭和 52 年（1977 年）5 月 1 日、新潟・両津間にジェットフォイルが日本で初めて就航して以来、ジェットフォイル乗船者数が 1 月 29 日新 潟発 7 時 55 分便において、2,000 万人を達成しております。

本格的な観光シーズンとなる 4 月以降は消費税率引き上げによる消費マインドの落ち込みが大きく影響し、新造船「ときわ丸」効果による新潟航路カーフェリー輸送量の増加を除き、前事業年度を下回る状況で推移いたしました。新造船「ときわ丸」は従前の当社船舶にはなかった最新設備を備えるなど、利用されたお客様から大変高い評価をいただきましたが、その反面、ジェットフォイル及び直江津航路・寺

泊航路からの転移も見られました。

当社にとって最盛期である7月・8月は、天候不順及び台風による予約のキャンセル発生や欠航に加え、ガソリン価格の高騰などにより、前事業年度における東京ディズニーランド30周年記念イベントや伊勢神宮の式年遷宮等の有名観光地でのイベント開催の影響を受けて落ち込みが目立った実績をさらに下回りました。

秋以降も前事業年度実績を下回る状況が続き、特に荒天が多かった12月は欠航便数が増加したことから大きく減少いたしました。

結果として、前事業年度実績を上回ったのは1月のみという状況で終わり、通年では、前事業年度比△3.0%、49,175人の減少となりました。

自動車航送部門において、バス・乗用車につきましては、各種割引施策の推進により積極的に誘致に取り組んだものの、ガソリン価格の高騰や、国土交通省による新運賃制度導入で貸切バス運賃が値上げされたことなどから、期待したほどの成果を上げることができずに終わりました。通年では、バスが前事業年度比△14.9%、418台の減少、乗用車は前事業年度比△5.8%、6,022台の減少となりました。

トラックにつきましては、4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要により3月までは好調を維持し、また、4月以降も概ね鮮魚の豊漁などで建設資材の減少などを補った結果、前事業年度比0.4%、151台の増加となりました。

貨物部門につきましては、前事業年度の平成25年4月2日に当社を存続会社として日本海内航汽船株式会社を吸収合併いたしましたので、1月から同社の業績が加わったことに加え、4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の恩恵を受けて3月までの輸送トン数は前事業年度よりも増加いたしました。4月以降はその反動で減少傾向が続き、佐渡の人口減少や公共事業削減の影響を受け、生活物資及び鉄材・資材等の減少などが見られましたが、通年では、前事業年度比4.6%、8,087トンの増加となりました。

この結果、1月から12月の全航路の輸送実績は、旅客輸送人員は1,580,013人（前事業年度比△3.0%、49,175人の減少）、自動車航送換算台数は219,076台（前事業年度比△3.5%、8,022台の減少）、貨物輸送トン数は183,824トン（前事業年度比4.6%、8,087トンの増加）となりました。

《 今後の見通し 》

当事業年度におきまして当社は、①安全運航の徹底、②営業の強化とお客様サービスの向上、③佐渡観光の振興と地元との共存共栄、④組織の見直しを含めた大胆な合理化を進めるを重点課題として認識し、目標達成に向けた取り組みを行ってまいりました。

①安全運航の徹底につきましては、「安全への取り組み」を安全輸送及び安全確保の指針と位置づけ、安全は最も基本的サービスであるとの考え方の元、「平成 26 年安全方針」及び「平成 26 年安全重点施策」を策定するとともに、当社ホームページに掲載し、同方針・施策に掲げた目標の達成に向け努力してまいりました。毎月開催される「安全マネジメント委員会」の協議内容、年 3 回実施される「安全総点検」の評価、年 1 回以上実施される運航管理に関する内部監査報告などの検証結果を踏まえ、12 月に開催された「安全管理体制に関する見直し会議」において、新たに次期事業年度の安全方針及び安全施策を策定いたしました。

また、平成 25 年 4 月 2 日の日本海内航汽船株式会社との合併により新たに加わった貨物船部門は、国土交通省による運輸安全マネジメント評価の結果を受け、安全重点施策の具体的な取り組み計画を策定するとともに、ヒヤリハット情報の有効活用に努めました。

さらに、安全運航に対する意思の統一を図るため、乗組員間及び乗組員と陸上職員とのコミュニケーション及びチームワークを確実に機能させることで情報の共有化を図りました。

②営業の強化とお客様サービスの向上につきましては、平成 25 年 12 月に会社組織を改定して営業本部を立ち上げ、従前にも増して営業強化に努めました。とりわけ、新造船「ときわ丸」効果が期待できる東北地方の中心都市である仙台市と、首都圏中央連絡自動車道の延長でバス団体の誘致が見込める神奈川県に駐在員を配置し、地域に密着した粘り強いセールス活動を展開いたしました。さらには、平成 27 年 3 月 14 日の北陸新幹線開業を見据え、佐渡へのアクセスが向上する関西地区の営業強化のため、10 月より大阪営業所の営業マンを 1 名増員いたしました。

お客様サービスの向上につきましては、「佐渡汽船グループお客様サービス向上委員会」を 3 回開催し、各部署で設定した目標と統一スローガンの達成状況を確認するとともに、ターミナル内に設置してあるデジタル・サイネージには全体目標を掲載し、ご乗船されるお客様に当社の理念をご理解いただけるように取り組みました。併せて、社外の接客等に係るセミナーや講習会に参加し、さらなるレベルアップ

を目指して他社の成功事例の取得に努めました。また、ターミナル内待合室等では積極的にお客様にお声掛けすることで、タイムリーな情報提供や隠れたお客様の不安・不満等を払拭すべく、コミュニケーションの強化を心掛けました。その結果、船内放送等で評価の声もいただいております、着実に成果を上げていると思われまます。

③佐渡観光の振興と地元との共存共栄につきましては、地元関係団体と協力し、「鉾山祭り」でのコンサート開催や島内スポーツ大会におけるボランティア活動など、佐渡の賑い創出・交流人口の増加に繋がるように取り組みました。

また、関係自治体を始めとする各種団体との連携を強化し、「佐渡金銀山」の世界文化遺産登録に向けて佐渡汽船グループを挙げて各種講演会へ出席し、PR活動に積極的に参加するとともに、多くの方に魅力を知ってもらえるよう、気軽に参加できる「佐渡世界遺産登録応援日帰りツアー」を設定し、集客に努めました。

④組織の見直しを含めた大胆な合理化を進めるにつきましては、平成25年4月の日本海内航汽船株式会社との吸収合併を踏まえ、物流改革室を中心に、新潟・佐渡間の貨物輸送の一本化による業務体制の見直し、効率的な人員配置、輸送用具等の共有化による費用の削減を検討いたしました。

また、管理部門のさらなる省力化・効率化を目的に、従前の庶務課・経理課・人事課を総務課として一本化し、営業部門に手厚く人数を配置するとともに、社員一人当たりの生産性向上に努めました。

このような状況下、当社は当事業年度同様、以下の施策を平成27年度の対処すべき重点課題と認識して実施してまいります。

① 安全運航の徹底

ア. 前事業年度に引き続き、「安全への取り組み」を安全輸送及び安全確保の指針と位置づけ、安全マネジメント態勢が適正に機能しているか、毎月開催される「安全マネジメント委員会」で検証します。また、毎月行う「安全診断」の中で、「安全重点施策」の実施状況を確認してまいります。

事故・労働災害の発生を削減すべく、具体的目標を数値化することで達成度を検証いたします。

イ. 平成26年11月25日に発生した貨物船「日海丸」による定置網乗り上げ事故を踏まえ、「BRM」の取り組みをさらに浸透させるとと

もに、ヒヤリハット報告等を有効活用することで、過失事故を削減いたします。

(注) BRM (ブリッジ・リソース・マネジメント)

ブリッジ (船橋) で利用可能なリソース (資源: 人・物・情報) を操船実務者のメンバーが、安全意識及び安全行動として有効に活用するための手法。

ウ. 「メンテナンス規程」の遵守により、機器故障の発生件数を削減いたします。

エ. 万が一事故が発生した場合、現場検証を行って事故原因の背景を含めた詳細な分析を行うとともに、分析結果に基づいて策定された再発防止策の徹底を図ります。

オ. 船舶設備及び乗降施設等については、定期的な点検・整備を実施するとともに、必要に応じて新替えまたは補修を行います。

② 営業の強化とお客サービス向上

ア. 平成 27 年 4 月 21 日の新造高速カーフェリー「あかね」定期就航を踏まえ、新潟県・上越市・佐渡市などの関係自治体と連携しながら直江津航路の利用促進は勿論のこと、新潟航路と合わせた周遊コースの販売強化にも取り組みます。

イ. 年間輸送人員目標 160 万人達成に向け、営業本部において目標と実績の管理を徹底し、未達部分に対する早めの手当を行います。

ウ. 当社にしかできない佐渡の特長を活かした旅行商品を開発し、お客様から支持されてリピーターとなってもらえるような商品造成に取り組みます。

エ. 「佐渡汽船グループお客様サービス向上委員会」を中心にお客様第一主義を徹底し、お客様の立場で考えて行動し、潜在的ニーズを意識して取り組みます。その結果として、常にお客様から感謝の言葉をいただけるように努めます。

③ 佐渡観光の振興と地元との共存共栄

ア. 従前以上に佐渡市・佐渡観光協会・佐渡スポーツ振興財団との連携を図り、新規需要の創出に繋がるスポーツやコンサート等のイベント誘致に努め、交流人口の拡大を図ります。

イ. 訪日外国人団体セールスを強化し、特に台湾・中国からの誘致拡大を推進いたします。現地エージェントとの商談会への積極的な参加、北陸と連携した広域観光ルートの提案等により、国内の団体客減少分を挽回するように取り組むことで、島内観光施設への送客に

努めます。

ウ. 平成 29 年度の「佐渡金銀山」世界文化遺産登録を実現させるべく、官民一体となって取り組みます。佐渡の活性化のためには世界遺産登録が不可欠であり、佐渡が注目されることにより、国内のみならず広く海外からも観光客来島が期待できることなどから、当社も積極的に参画いたします。

④ 中長期的に必要な経営施策の検討と実行

ア. 前事業年度に引き続き、全体の輸送量が減少しながらも輸送ニーズが混雑便に集中している貨物部門の問題を整理・検証し、合理化の具体案の実践について取り組みます。一部輸送用具の共有化や人的交流の推進など、業務の効率化・省力化に取り組んでおりますが、佐渡汽船グループ全体としてさらなる改善に向けて安全とコスト削減を両立させたシステム構築を研究してまいります。

イ. 前事業年度に発足した「BCP策定委員会」を継続開催し、各部署における具体的課題や対策を整理検証し、佐渡汽船BCPの策定及び周知を目指します。

ウ. 管理部門のさらなる統合を含めた見直しを行い、従前の縦割り業務にこだわらない体制にすることで合理化を推進し、ルーチン業務についても改めて見直しを行います。そのためには、管理職の権限と責任を拡大させ、各自の立場で業務を完結すべき職場風土の構築に努めます。

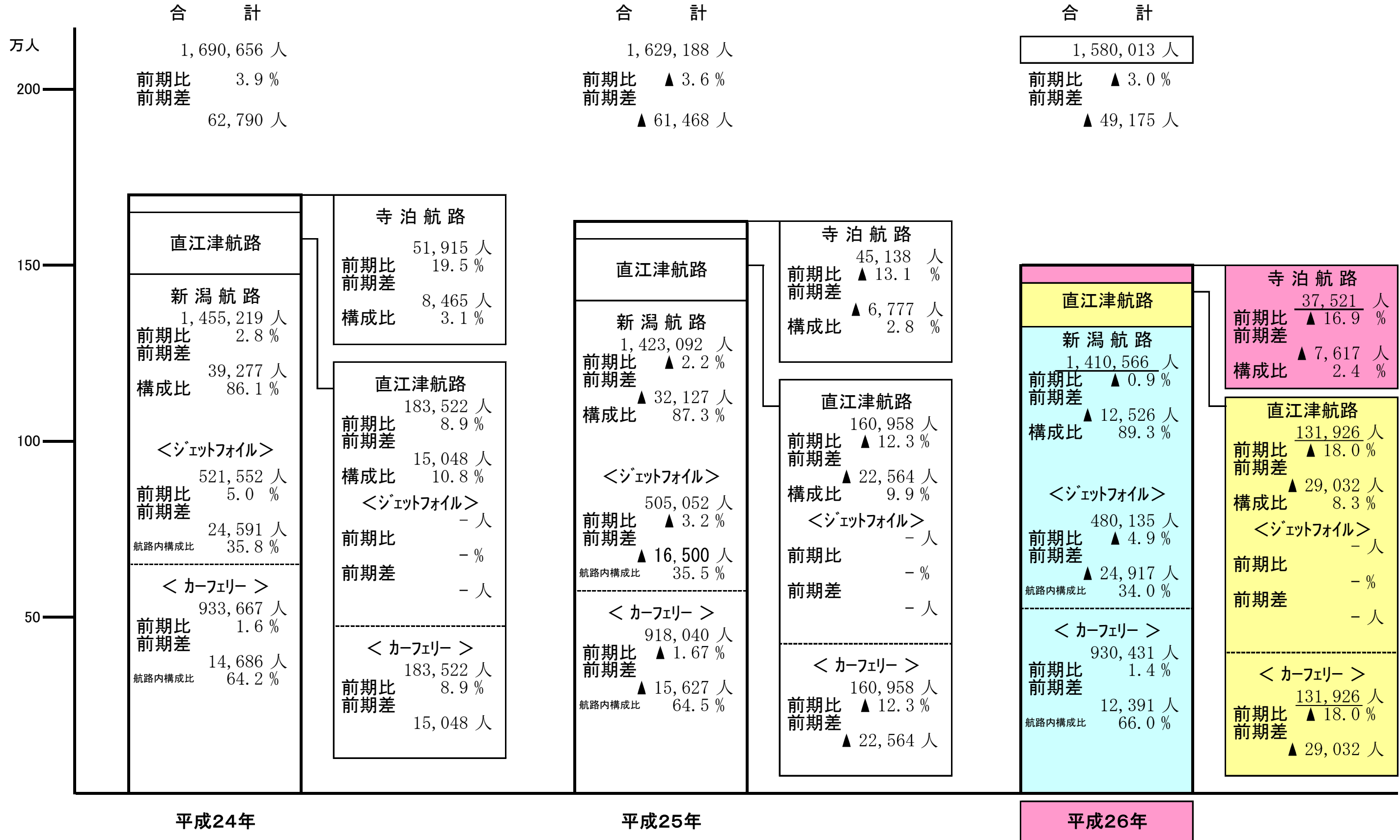
以上のように役職員一同、力を合わせ、安全で安定した運航を確保し、会社の健全経営に向け努力いたします。公共交通機関の使命である安全を第一に、お客様に信頼され、喜ばれ、愛される佐渡汽船を目指すとともに、離島航路 No. 1 の良質なサービスをお客様に提供してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～ 目 次 ～

| | |
|-------------------------------------|----|
| ● 旅客輸送人員の航路別 3 力年の推移（発着合計） | 1 |
| ● 旅客収入の航路別 3 力年の推移 | 2 |
| ● 自動車航送換算台数の航路別 3 力年の推移（発着合計） | 3 |
| ● 自動車航送換算台数の車種別 3 力年の推移（発着合計） | 4 |
| ● 航送収入の航路別 3 力年の推移 | 5 |
| ● 貨物輸送屯数の航路別 3 力年の推移（発着合計） | 6 |
| ● 貨物輸送屯数の主要品目別 3 力年の推移（発着合計） | 7 |
| ● 貨物収入の航路別 3 力年の推移 | 8 |
| ● 営業収入の部門別 3 力年の推移 | 9 |
| ● 営業費用の部門別 3 力年の推移 | 10 |
| ● 長期借入金及び社債残高 3 力年の推移 | 11 |
| ● 損益 3 力年の推移 | 12 |

旅客輸送人員の航路別3ヵ年の推移（発着合計）

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



旅客収入の航路別3カ年の推移

金額は消費税抜きで表示

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)

億円

合計

4,363,347千円

前期比 5.8%

前期差 239,795千円

営業収益比 52.9%

合計

4,288,635千円

前期比 ▲1.7%

前期差 ▲74,712千円

営業収益比 50.3%

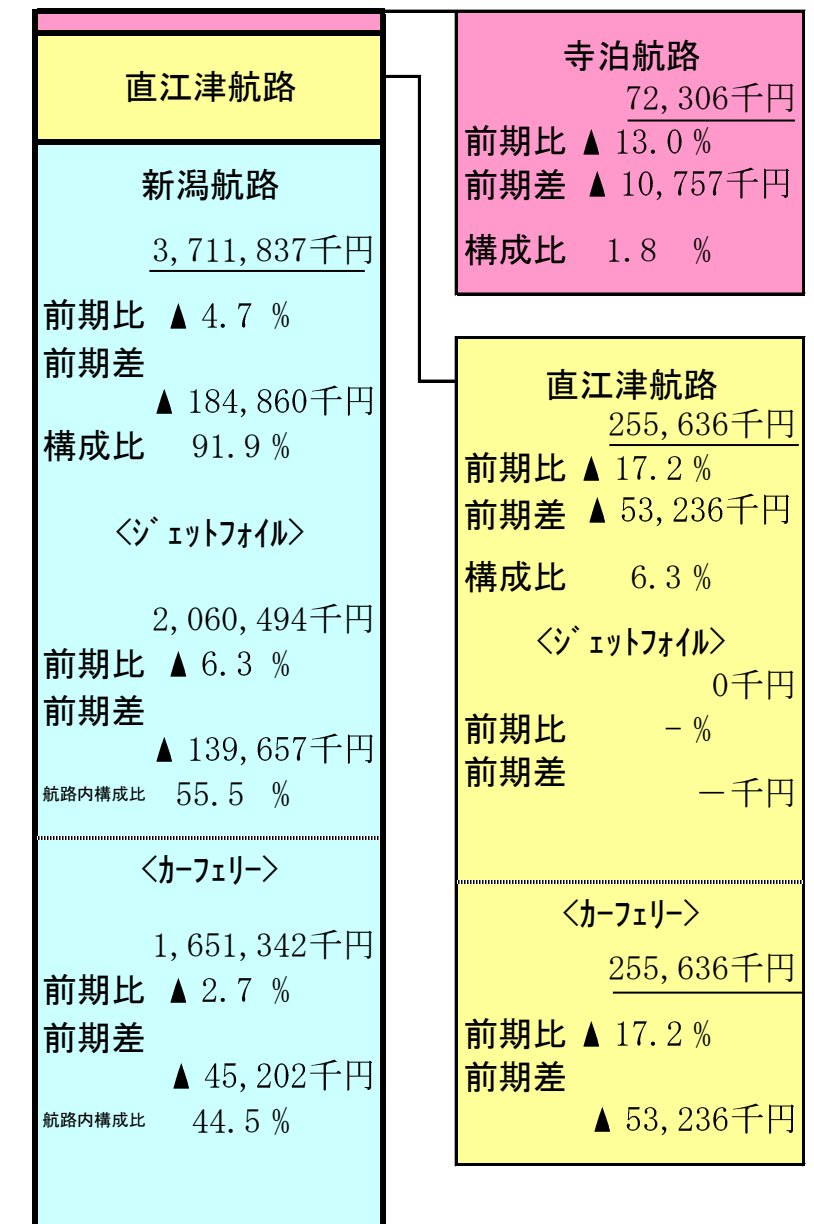
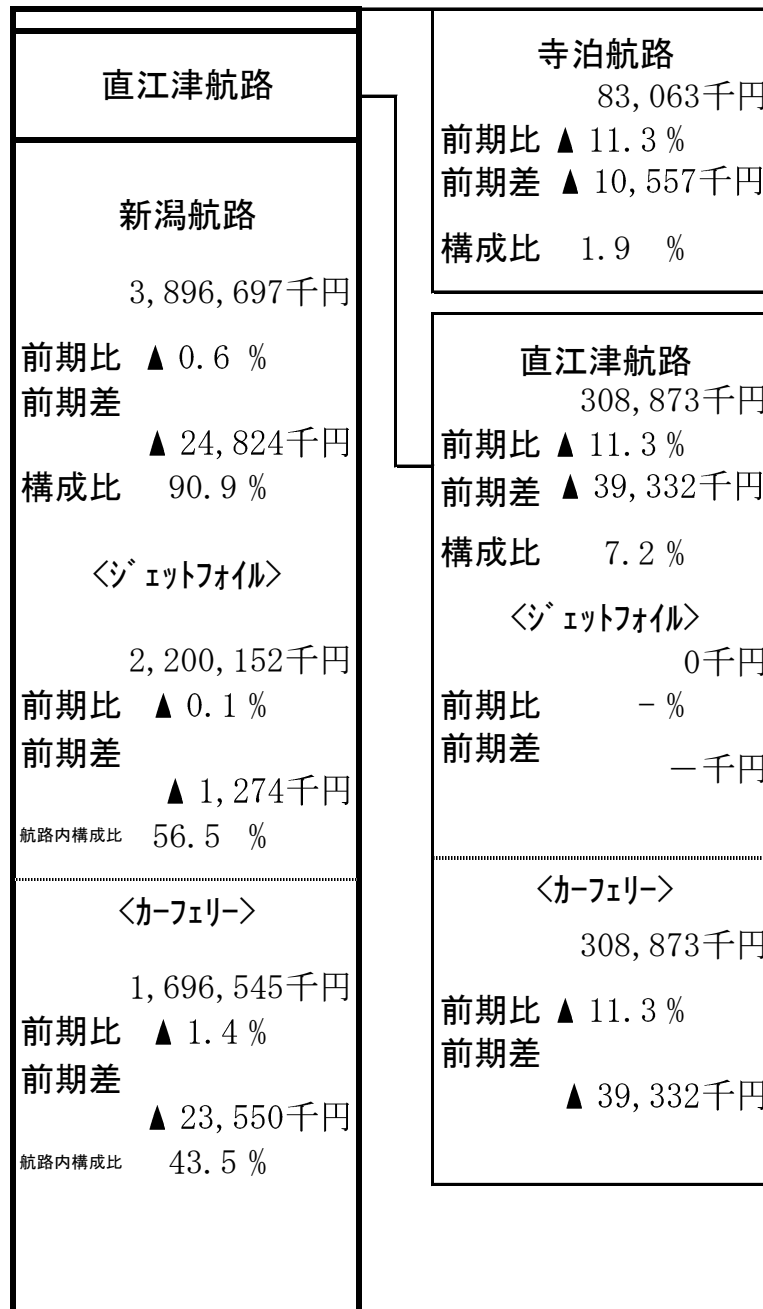
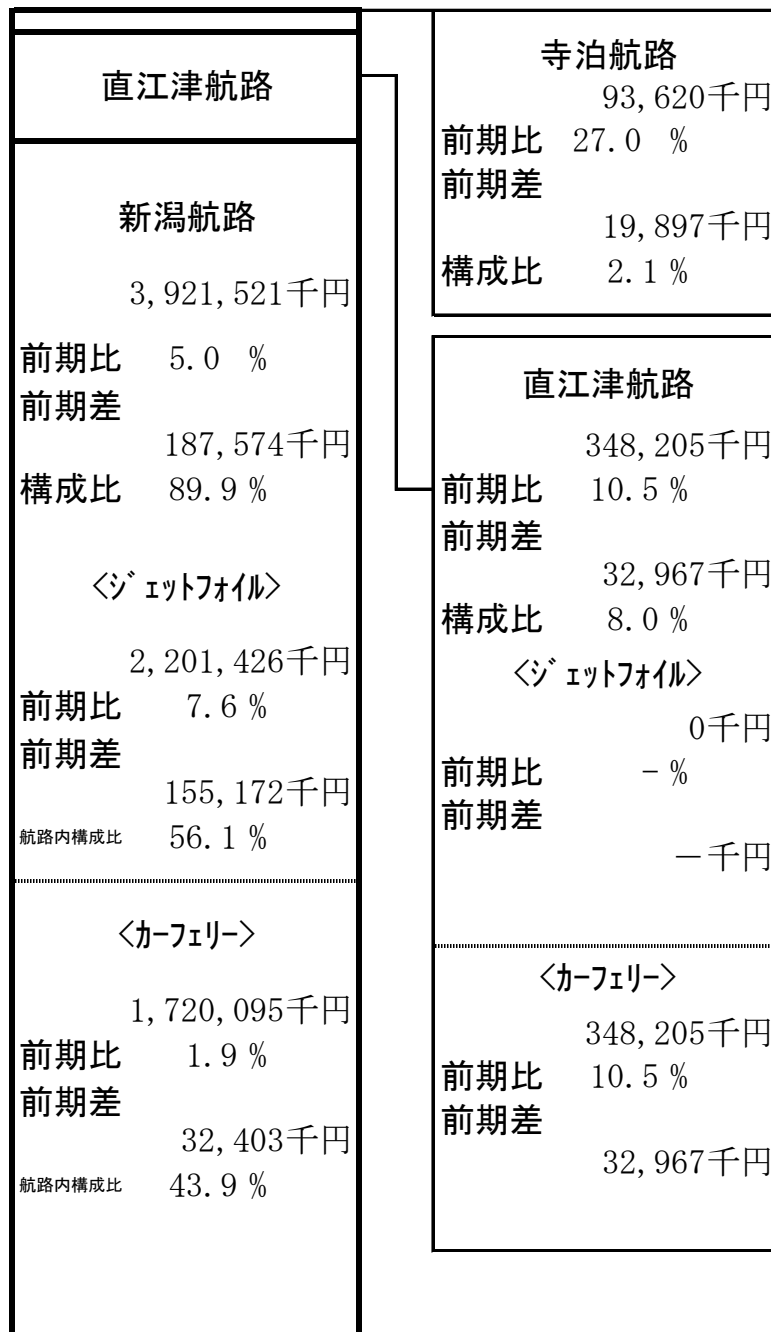
合計

4,039,780千円

前期比 ▲5.8%

前期差 ▲248,855千円

営業収益比 48.3%



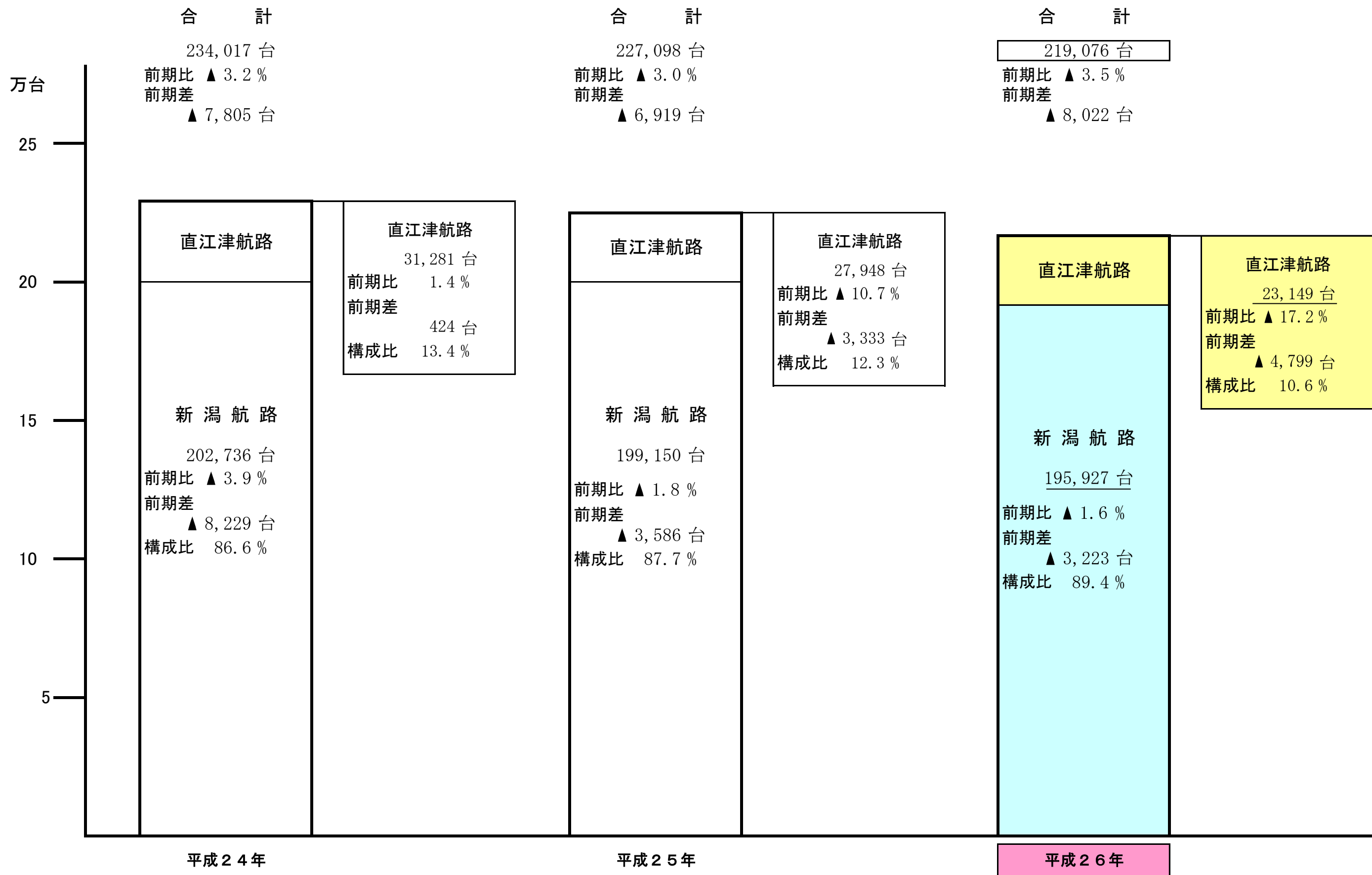
平成24年

平成25年

平成26年

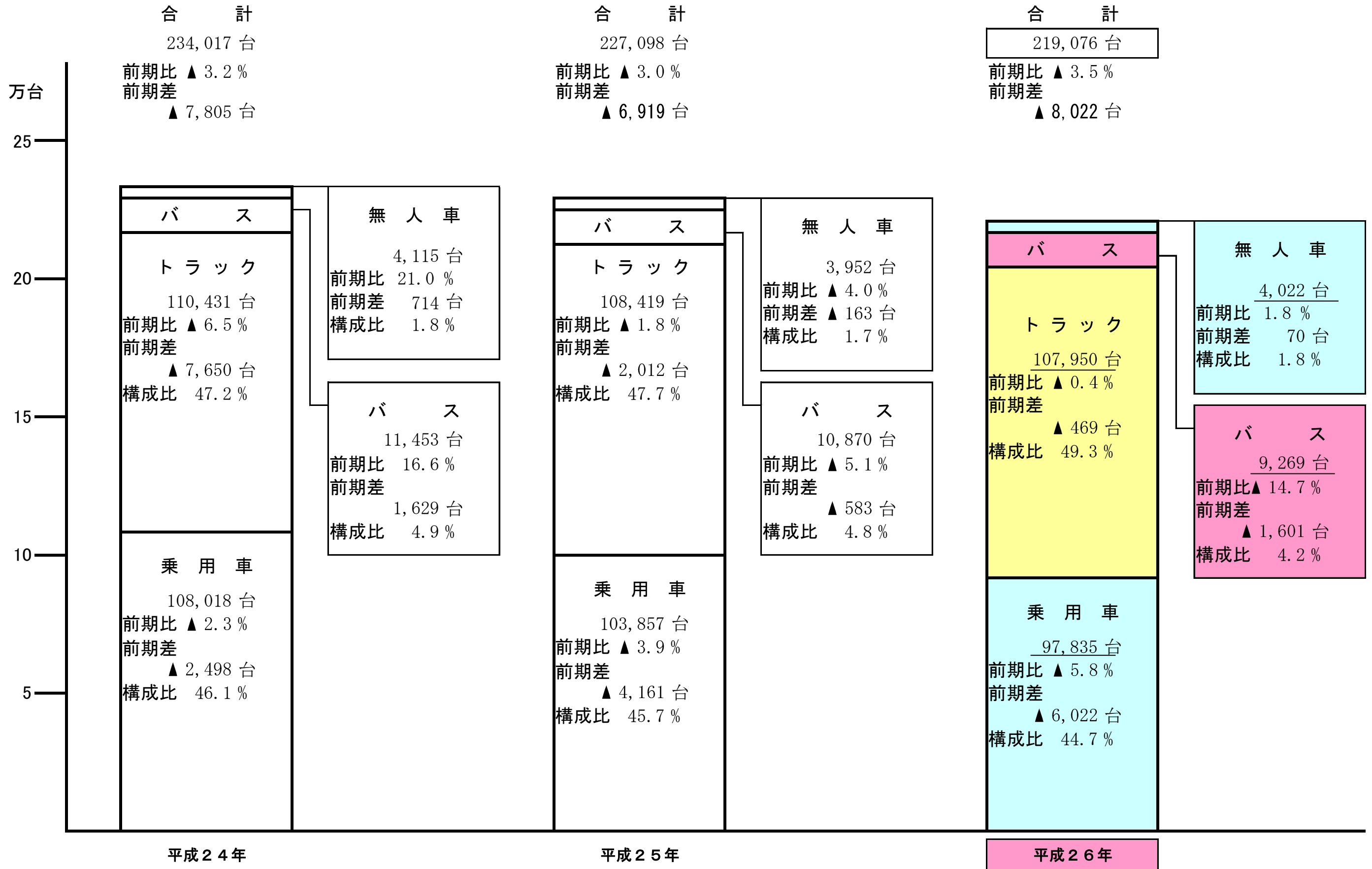
自動車航送換算台数の航路別3カ年の推移（発着合計）

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



自動車航送換算台数の車種別3カ年の推移（発着合計）

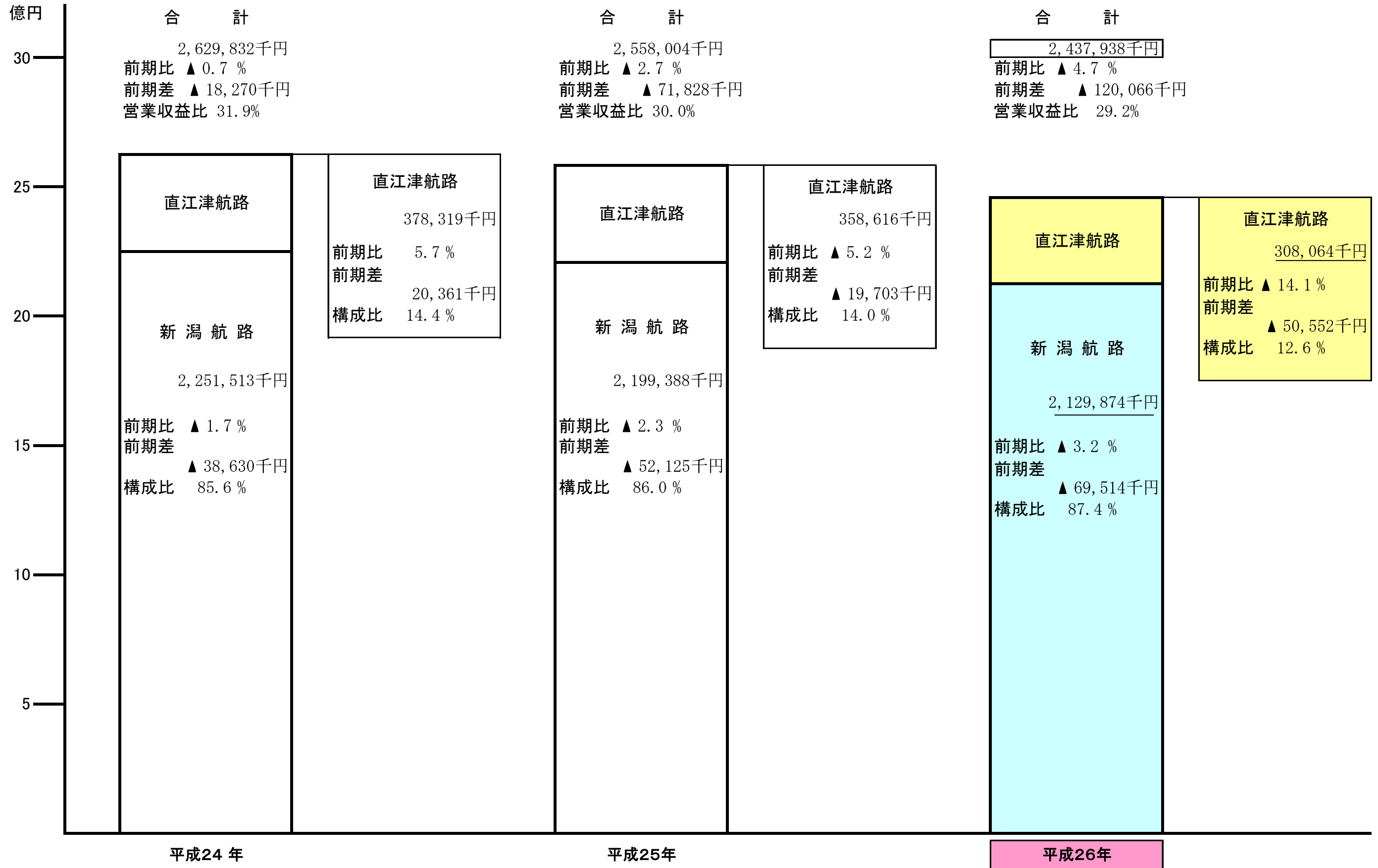
前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



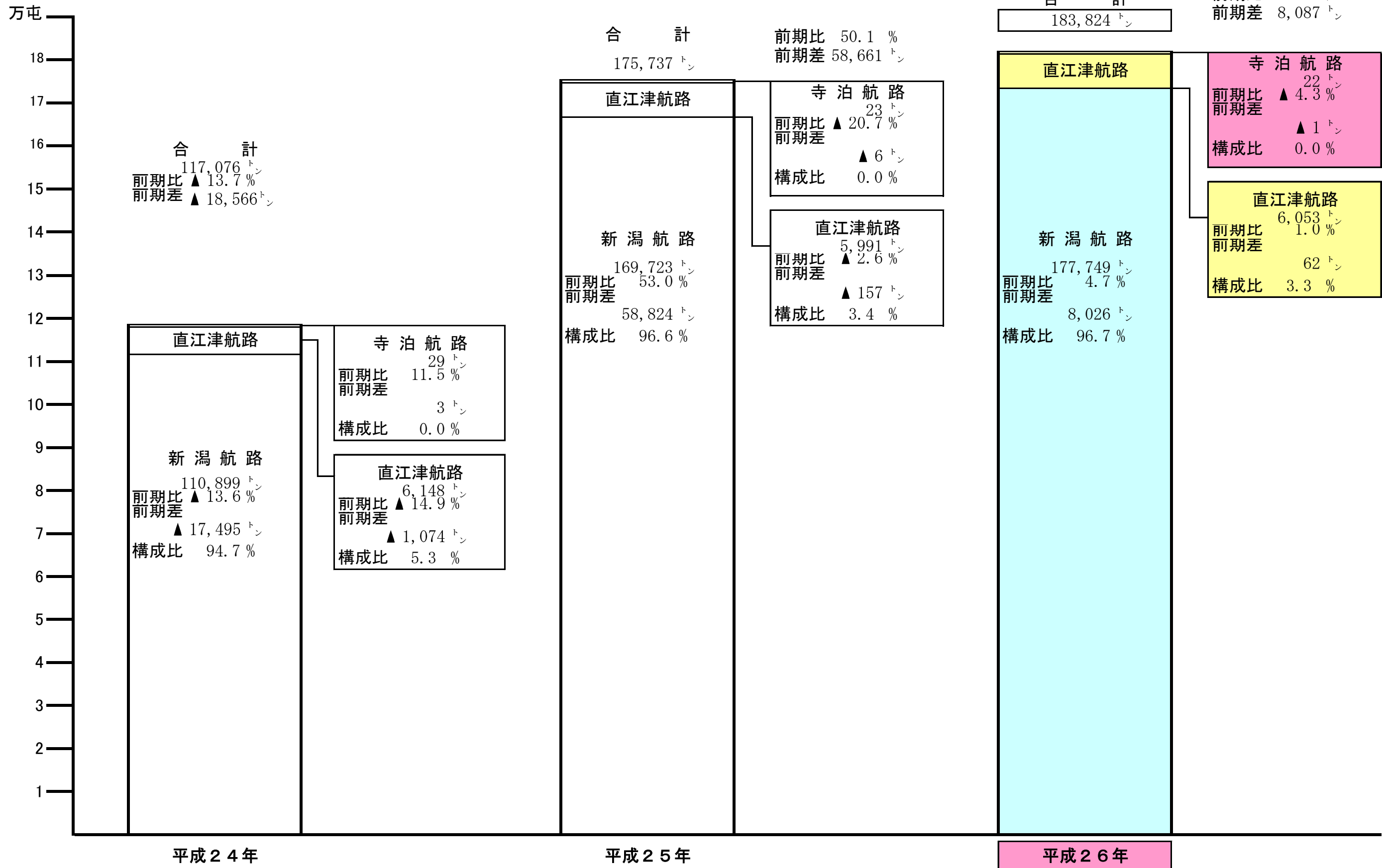
航送収入の航路別3カ年の推移

金額は消費税抜きで表示

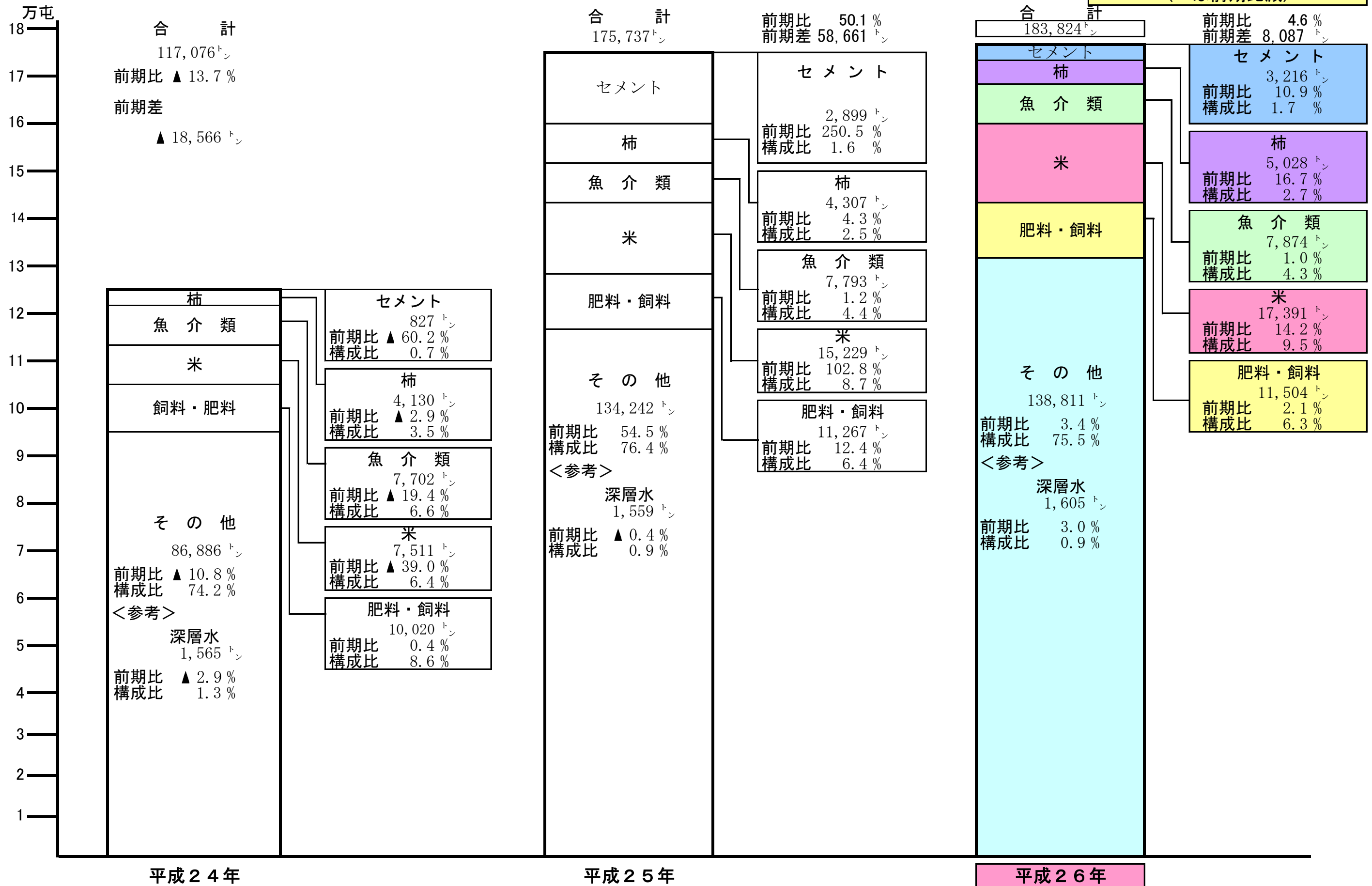
前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



貨物輸送屯数の航路別3カ年の推移（発着合計）



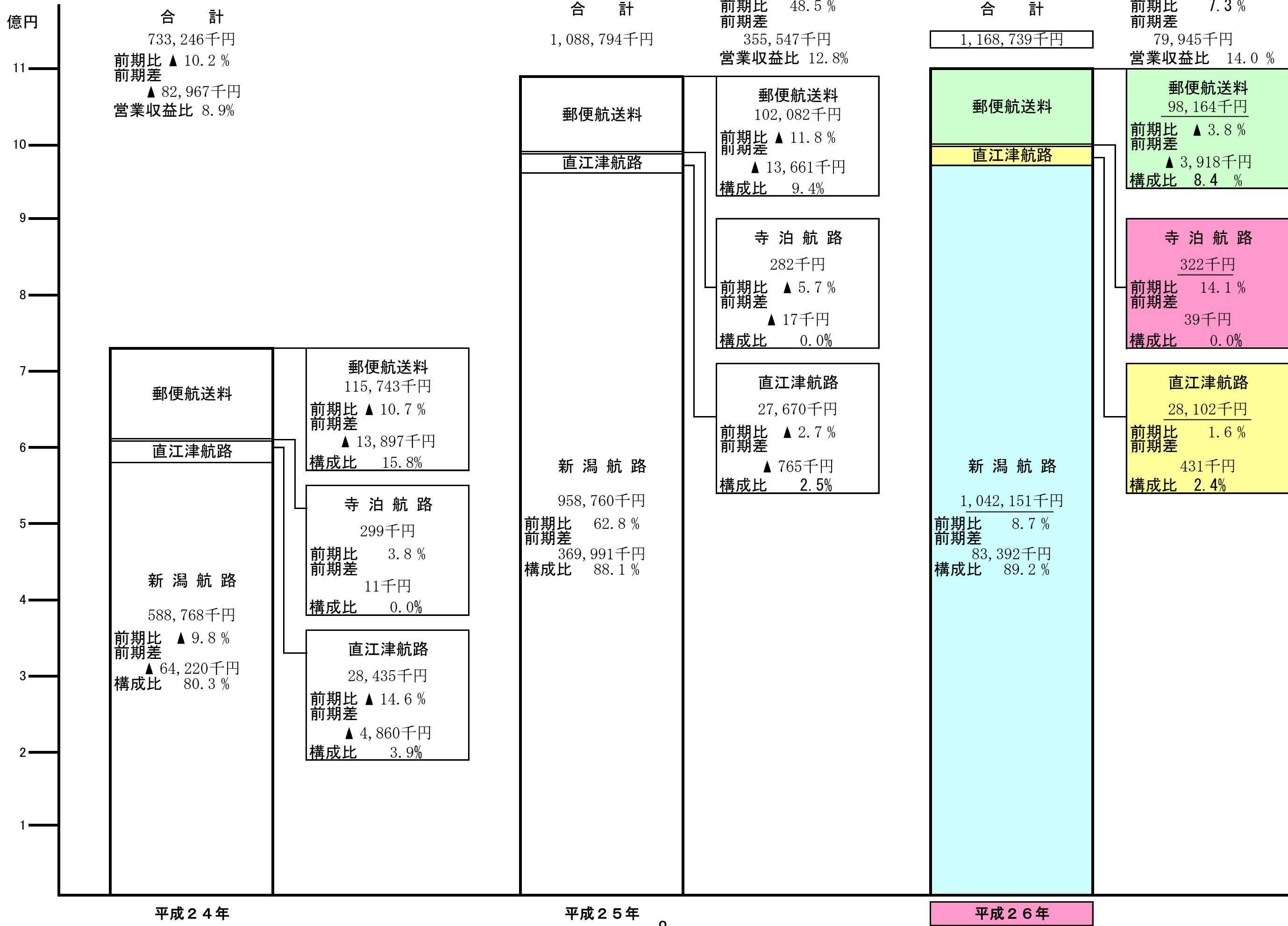
貨物輸送屯数の主要品目別3カ年の推移（発着合計）



金額は消費税抜きで表示

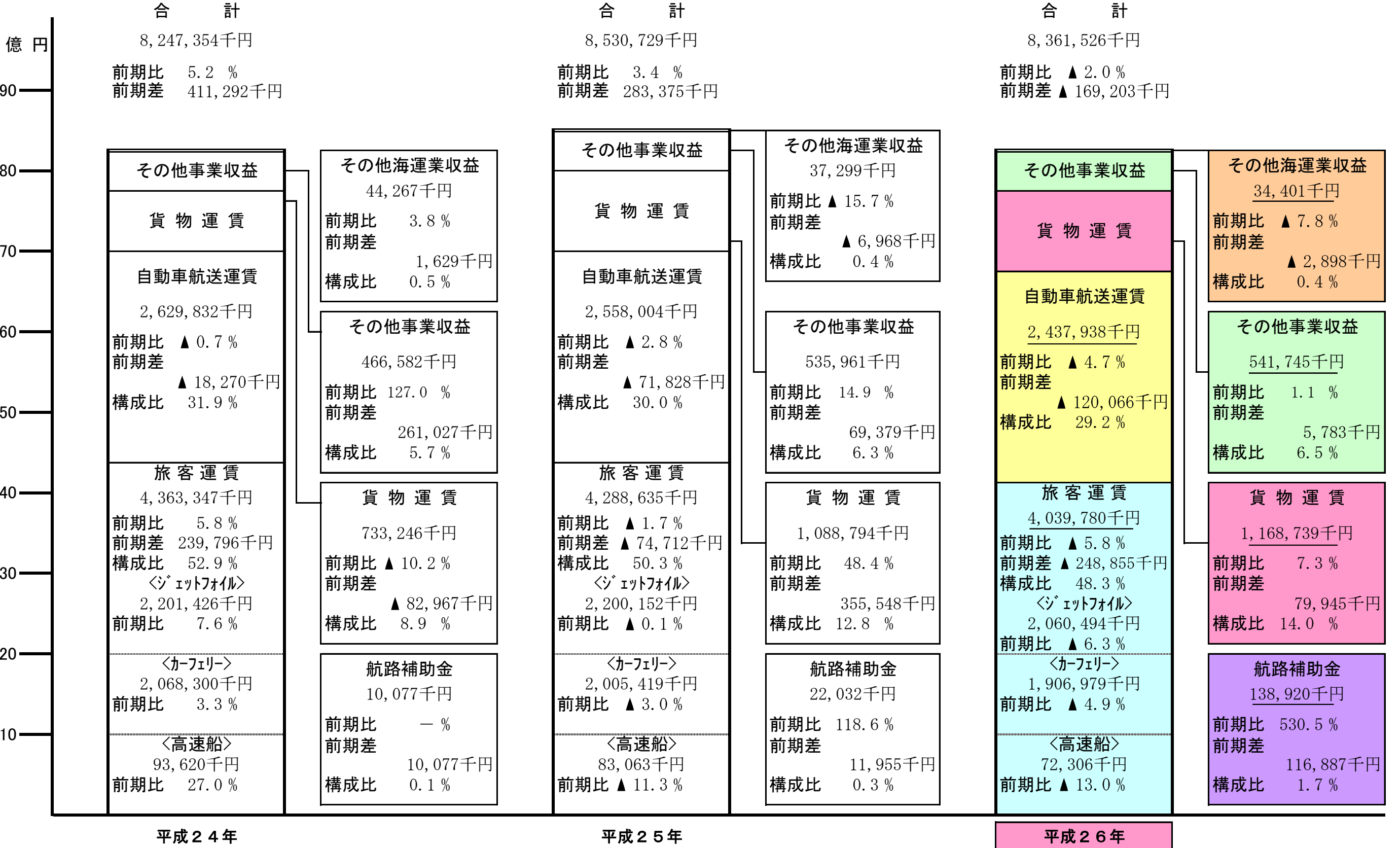
貨物収入の航路別3カ年の推移

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



営業収入の部門別3カ年の推移

金額は消費税抜きで表示

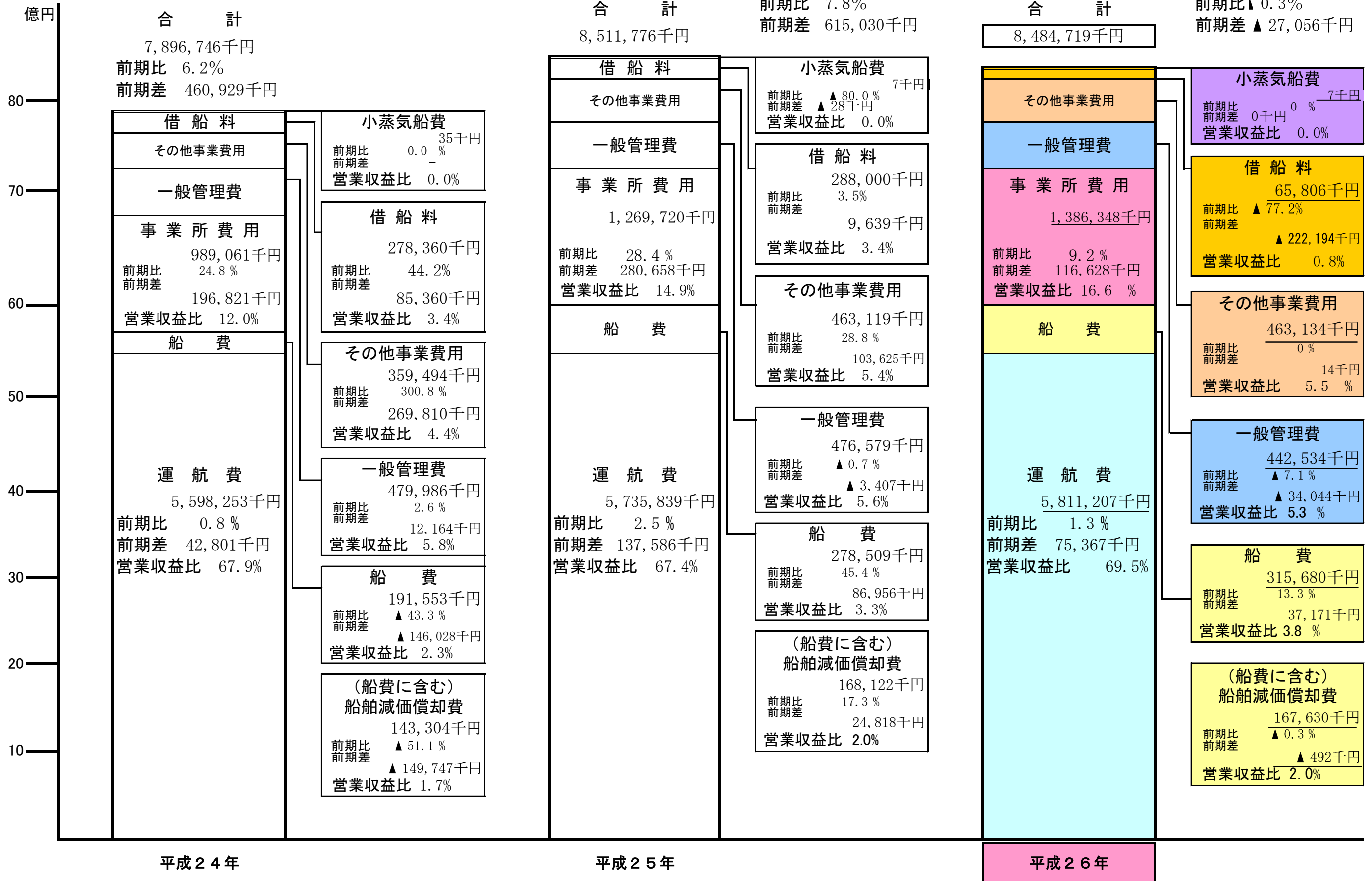


前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)

営業費用の部門別3カ年の推移

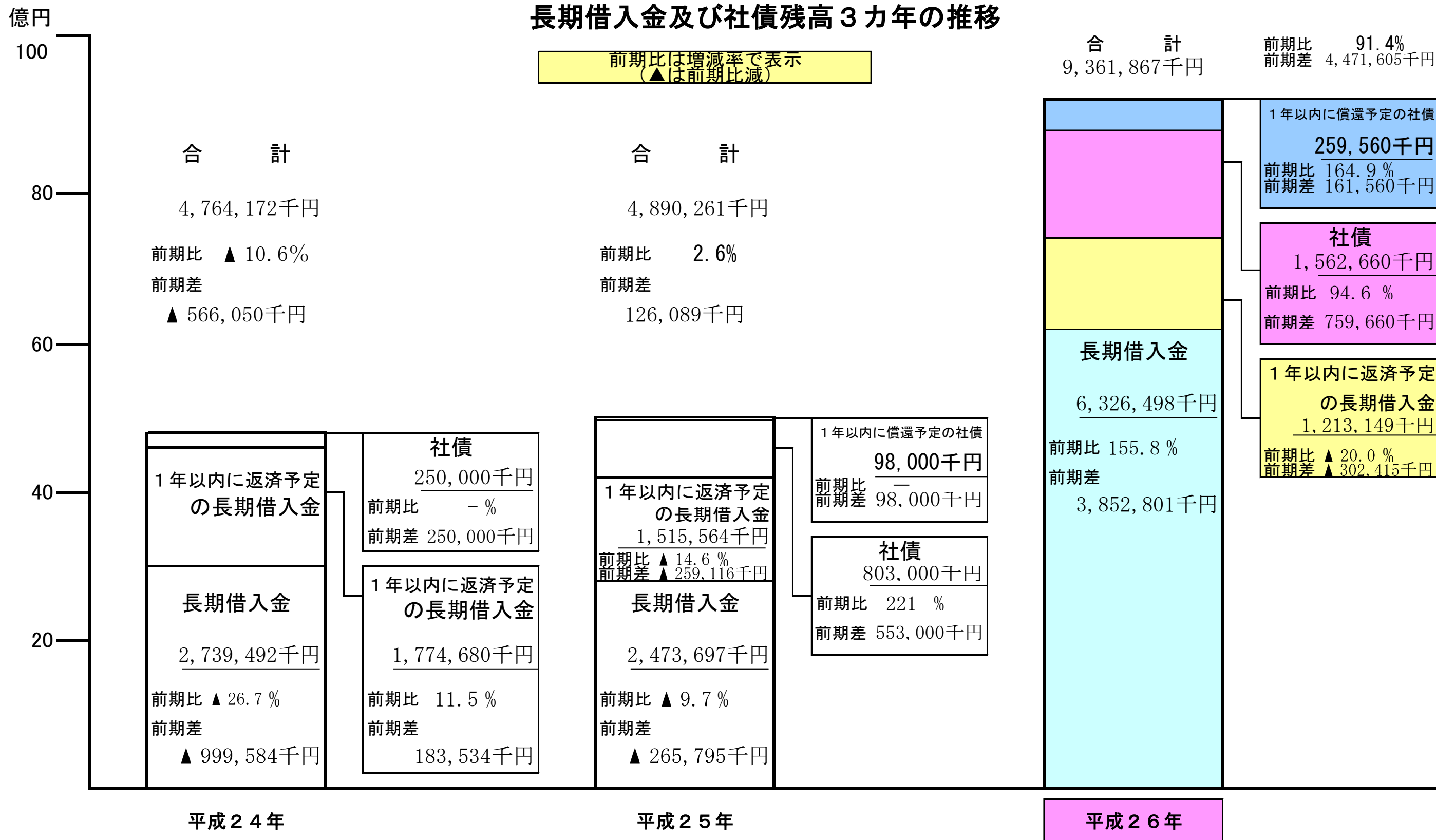
金額は消費税抜きで表示

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



長期借入金及び社債残高3カ年の推移

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)



損益3カ年の推移

金額は消費税抜きで表示

金額の▲は損失を表す

前期比は増減率で表示
(▲は前期比減)

| | 平成24年 | | 平成25年 | | 平成26年 | |
|--------------|---------------|------|---------------|-------|---------------|------|
| | 金額(円) | 前期比% | 金額(円) | 前期比% | 金額(円) | 前期比% |
| 営業収益 | 8,247,354,748 | 5 | 8,530,729,346 | 3 | 8,361,526,177 | ▲ 2 |
| 営業費用 | 7,896,746,521 | 6 | 8,511,776,185 | 8 | 8,484,719,962 | ▲ 0 |
| 営業損益 | 350,608,227 | ▲ 12 | 18,953,161 | ▲ 95 | ▲ 123,193,785 | — |
| 営業外収益 | 179,355,404 | ▲ 1 | 176,930,743 | ▲ 1 | 173,454,616 | ▲ 2 |
| 営業外費用 | 234,539,711 | 3 | 190,546,680 | ▲ 19 | 211,847,462 | 11 |
| 営業外損益 | ▲ 55,184,307 | — | ▲ 13,615,937 | — | ▲ 38,392,846 | — |
| 経常損益 | 295,423,920 | ▲ 17 | 5,337,224 | ▲ 98 | ▲ 161,586,631 | — |
| 特別利益 | 2,688,186 | ▲ 93 | 41,817,190 | 1,456 | 678,496 | ▲ 98 |
| 特別損失 | 72,724,043 | ▲ 26 | 16,445,059 | ▲ 77 | 153,864,162 | 836 |
| 特別損益 | ▲ 70,035,857 | — | 25,372,131 | — | ▲ 153,185,666 | — |
| 税引前当期純損益 | 225,388,063 | ▲ 24 | 30,709,355 | ▲ 86 | ▲ 314,772,297 | — |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6,041,500 | 124 | 16,270,547 | 169 | 7,912,500 | ▲ 51 |
| 法人税等調整額 | 14,091,050 | ▲ 81 | ▲ 7,174,533 | ▲ 151 | ▲ 44,495,281 | — |
| 当期純損益 | 205,255,513 | ▲ 6 | 21,613,341 | ▲ 89 | ▲ 278,189,516 | — |